

イギリスの登山家、ジョージ・マロリー(1886~1924)は「なぜ山に登るのか。そこに山があるからだ」と言ったそうです。この言葉を哲学的な意味で捉えれば、「山は人生に似ている。目先の小さな目的に捉われず、その山の頂上を目指し、ただ一生懸命登ればいい。それが、充実した人生を過ごす秘訣なのだ。」ということになるのでしょうか。マロリーは当時未踏峰だったエベレストに何度も挑戦し、1924年の3度目の挑戦の際に、頂上付近の北壁で行方不明になりました。マロリーがエベレスト登頂を果たしたのかはわからないままです。さて、この言葉は亡くなる1年前1923年3月18日付けのニューヨーク・タイムズのマロリーへのインタビュー記事から始まります。

この時の記者とマロリーのやりとりは以下のとおりです。

記者「Why did you want to climb Mount Everest?」

マロリー「Because it's there.」

日本語に直訳すると

記者「なぜ、あなたはエベレストに登りたかったのか?」

マロリー「なぜならば、そこにそれがあるから。」

となりますが、ここでいう「it=それ」って何でしょうか? マロリーが言った「それ」とは、当時まだ誰も登ったことがないエベレストのことで、登山家として世界最高峰に登りたかったために口にした言葉だとも言われています。つまり、マロリーが答えた「それ」とは、抽象的、観念的な意味での「山」ではなく、具体的な「実在する山=エベレスト」のことなのです。マロリーは、山を人生に例えたりはしていません。哲学的な意味は、まるでないのです。歴史に残る名言も誤訳や誤解から後世に伝わるが多々あります。

一方、生物学者で京都大学名誉教授であると同時に登山家でもあった今西錦司(1902~1992)は、「なぜ山に登るのか」という問いに、こう答えたと言われます。

今西「山に登るとその頂上からしか見えない景色があって、そこに次の山が見える。

だからまたその山に登りたくなる。」

こちらもなかなか味わい深い言葉です。この言葉で大切なところは、そこに行ってみないと見えない風景がある、ということです。頂上に到達したと思ったら、今まで見えていなかった次の山が見えた、これがゴールだと思ったら、次の目標が見えた、ということです。人の学びや成長に終わりはない、ひとつステップをクリアしたら、また次のステップをクリアし、さらに新たなステップをクリアし、人は生涯チャレンジを続けていくことが大切だ——私は今西の言葉をそう解釈しました。